

地区防災計画フォーラム2020

～災害から学ぶ強靱なコミュニティづくり～



学校現場における地域防災の取組について
益城町立広安小学校

本日の内容

- (1) 学校と地域の関係性**
- (2) 学校と地域の連携**
- (3) 防災マップづくりの取組**

学校と地域の関係性

○広安小学校区は…

勤労生産的活動としての田畑の借用、校区内の福祉施設の訪問、お年寄りによる伝承遊びの指導等、地域の自然や施設、人材を活用した創意工夫のある教育活動を展開できる地域素材に恵まれている。平成23年度から地域コーディネーターが配置され、地域人材の活用がよりスムーズにできるようになり、学校ボランティアの活動も盛んである。

学校と地域の関係性

○今までの学校ボランティアは…

- ・授業での丸付けボランティア
 - ・クラブ活動ボランティア
 - ・登下校見守りボランティア
 - ・広安フェスタでの伝承遊びボランティア
 - ・読み聞かせボランティア
- 等

今年度から **防災マップづくりボランティア**

学校と地域の連携

防災マップづくりでは…

①自主防災クラブとの連携

②学校運営協議会との連携

③惣領地区の防災マップづくりへの参加

学校と地域の連携

① 自主防災クラブとの連携

自主防災クラブと連携し、防災マップづくりに向けてどのように取り組めばいいか話し合い、協力をお願いした。

令和元年9月2日 熊本日日新聞より

令和元年(2019年)9月2日月曜日

3 社会

防災士17万人

災害頻発 増加続く

取得費助成の自治体も

世界女子ハンド 福岡

自主防災組織 高齢化視野に若者も参加

熊本発SDGs

持続可能な未来へ

防災士17万人

災害頻発 増加続く

取得費助成の自治体も

世界女子ハンド 福岡

自主防災組織 高齢化視野に若者も参加

熊本発SDGs

持続可能な未来へ

学校と地域の連携

②学校運営協議会との連携



学校運営協議会と連携し、フィールドワークや防災マップづくりへの協力をお願いした。

学校と地域の連携

③ 惣領地区防災マップづくりへの参加



惣領地区で行われた豪雨災害に備えた防災マップづくりに4年部の担任が参加し、防災マップづくりに向けてどのような活動をすればよいか実際に体験してみた。

防災マップづくりの取組

- ①フィールドワークを行う
- ②防災マップを作成する
- ③防災マップづくりのことを発表する

防災マップづくりの取組

①フィールドワークを行う。



ボランティアと一緒に自分たちの通学路を中心にフィールドワークを行い、気づきをシートにまとめた。

防災マップづくりの取組

②防災マップを作成する。



ボランティアと一緒にフィールドワークでの気づきをもとに防災マップ作成を行い、気づきや思いを発表した。

防災マップづくりの取組

③防災マップづくりのことを発表する。



防災マップづくりで学んだことを広安フェスタ(学習発表会)で発表した。保護者や地域に啓発できた。

フィールドワークでチェックした場所

危険な所は？

「あぶない」
の看板が
あるね

こわれて
いて危険



この階段は
くずれてる

フィールドワークでチェックした場所

安全な所は？



ガソリンスタンド
も安心だ

防災無線が
公民館にある



公園に
防災倉庫
がある

完成した防災マップ

インタビュー
内容も書き
込んだ



防災マップの活用とこれから

・地域への影響

- ①子ども110番の家の広まり
- ②広安フェスタの発表への協力
- ③フィールドワークに参加された方の思い
- ④防災マップづくりに参加された方の思い

防災マップの活用とこれから

・子どもへの影響

①児童の感想

②防災学習での学び

地域への影響

①子ども110番の家の広まり



110番の家の
ステッカーを貼
らせてください

地域への影響

② 広安フェスタの発表への協力



学校・地域・住民・役場と連携をとり、「安心・安全な町づくり」をしたいという気持ちだからです。

区長さん。
なぜ力を貸してくださるのですか？

地域への影響

③フィールドワークに参加された方の思い

○今回のような取り組みを通して子どもから大人まで自助・共助の意識をもって今後の災害に備えることが大切だと感じた。

○地域の方にインタビューすることで、私たちの知らない災害時の状況を知ることができた。

○防災マップを作成し、日ごろの生活に活用していくことが大事になるが、どうやって意識を高め、行動化につなげていくのか。行政・学校・地域が連携していくことが大事になると思う。

○大人と子どもでは、気づくところが違ったり、同じ場所でも危険と思うレベルが違ったりした。時々子どもたちと通学路を歩いて確認することは大事だと思った。

地域への影響

④防災マップづくりに参加された方の思い

○学校の児童の様子も分かったし、区長さんの説明のおかげで住んでいる地域のことも知ることができた。自分の友人にもこのような活動に参加するのを進めたい。

○地域の人とともに、児童がフィールドワークとマップづくりをしたのは大変良かった。私も改めて防災の目で見て回り、見過ごせないものは区長さんへ申し出た。

○自分と同じ地域に住んでいる子どもたちを知ることができた。また、教えることの大変さも体験し、知ることができた。

○PTAのサポーターの募集は、全学年に呼びかけたらよかった。もっとたくさんのサポーターがほしい。

子どもへの影響

①児童の感想

○ 防火水そうが思ったよりたくさんありました。ほかにも、防災倉庫やかまどベンチもありました。益城はとてもいい環境なんだなと思いました。

○私は、フィールドワークをやってよかったなと思います。なぜなら、自分の身を守ることになるからです。他にもインタビューをしたので人と人の関係も深まったのではないかと思います。今後、フィールドワークをやって知ったこと、人との距離が深まったことを通して、益城町がより楽しく安全な町になればいいなと思いました。

○わたしは、フィールドワークの授業があると知ったときは、わたしの通学路にはとくに危ない場所や危険な場所はないと思っていました。でも、よく見ると学校までとっても近いのにいろんな危ない物や安全な物がありました。

子どもへの影響

②防災学習での学び

この4年生の勉強のおかげで、たくさんの人が幸せに、楽しくくらし、とてもいいなと思いました。

第一回全国子ども防災作文コンクール
日本防災士会賞 受賞作文

くまもとじしんを覚えて

益城町立広安小学校四年

わたしは、四年生の防災のべんきょうをして、くまもとじしんのことを、思い出し考えました。わたしが一年生の、まだ小学校に入学したばかりのときの夜に、いきなりしんど七のじしんがありました。わたしは、なにがおこったのかまったくわかりませんでした。家の物はたおれ、ガラスのしよつきなどは、われ、家のなかには、ガラスなどでもキケンなじようたいでした。そのときわたしは、おきていたので、すぐにひなんしました。そして、次の日よしんなどがなかつたので、家にかえって、かたづけをしました。そしてねていると、また大きなじしんがありました。わたしは、ねるまえにまたじしんがあつたらと思ひ、すぐにひなんできるようにけいたいにおきました。そのおかげで、わたしは、すぐにひなんできました。そのすこしのじゅんぴでわたしの命のキケンが

すこしでもなくなったのかなとおもいました。このくまもとじしんでなくなったかたや大ケガをしている人もたくさんいます。でも今わたしは、楽しくふつうの生活をしています。今でもくまもとじしんのことでもかなしみながらいきている人もいるんだと思いました。だから今、わたしたちは、いろいろな、きせきで生きているのだなとも思います。これらのことから、自分の命は、とてもだいじにしようと思いました。じょうだんで、わたし、しぬとか、あいてに、しねとかゆう人などがいるかもしれないけど、ほんとうは、しにたくないのに、なくなった人たちがいるから、じょうだんで言った人がいると、なくなった人たちや、その人のかぞくなどは、とてもかなしむと思います。だから、この四年生のべんきょうのおかげで、たくさんの人がしあわせに、たのしくくらし、とてもいいなとおもいました。

成果○と課題●

- 自助・共助の意識づけ
- 行政・学校・地域の連携
- 防災学習の大切さ・意識の向上
- ふるさとを愛する心の涵養

- 他学年やPTA・地域への周知
- 学校生活への活用
- 110番の家の広がり
- 防災の視点以外への広がり

成果○と課題●

防災マップづくり

- ・完成はない
常に更新し続けるもの
- ・学校・家庭・地域を
つなげる大切なもの

地区防災計画フォーラム2020

～災害から学ぶ強靱なコミュニティづくり～



ご清聴ありがとうございました。